

## 河野氏、COCOA「運用の必要性なし」と判断 不具合多発の末に

2022年9月16日 毎日新聞



閣議に臨む河野太郎デジタル相＝首相官邸で  
2022年9月13日午前10時、竹内幹撮影

河野太郎デジタル相は13日の閣議後記者会見で、新型コロナウイルスの接触確認アプリ「COCOA（ココア）」の機能を停止する考えを明らかにした。感染者の「全数把握」が簡略化されることに伴い、運用する必要性がなくなったと判断した。運用を巡ってはトラブルが多発したため、政府は今後、ココアの問題点を検証し、感染症のパンデミック（世界的大流行）が起きた際の教訓にしたい考えだ。

政府は新型コロナの全ての感染者に届け出を求め、**「全数把握」を改め、重症化リスクの高い高齢者**

などに限定した運用を26日から全国一律で始める。河野氏は「ルールが変わるとココアを活用する前提が変わるので、ココアは機能停止になる」と説明した。

厚生労働省によると、ココアのダウンロード数は9月9日時点で4055万件。機能停止の日程は未定で、決まり次第、発表する。

ココアは安倍晋三政権下の2020年6月に運用をスタート。スマートフォンの近距離無線通信（ブルートゥース）の機能を利用し、お互いのプライバシーを確保しながら、陽性者と接触した可能性について通知を受ける仕組み。感染者を早期に発見し、クラスター（感染者集団）を防ぐ切り札として期待が集まった。

しかし、運用開始直後から不具合が続出。グーグルの基本ソフト（OS）を搭載したスマホで20年9月以降、約4カ月にわたり、陽性者と接触しても通知が正確に受けられない問題もあり、厚労次官らが嚴重注意処分を受けた。河野氏は「スタート時からいろいろなボタンの掛け違いがあった」と振り返り、失敗点も含めて検証する考えを強調。松野博一官房長官も13日の記者会見で「次のパンデミックを見据え、ココアの活用状況や評価、課題などについて関係省庁でしっかりと総括する」と述べた。松野氏は運用開始からこれまでの委託先企業との契約額が13億円に上ることも明らかにした。

ココアを停止することについて、政府の「接触確認アプリ有識者検討会合」メンバーの森亮二弁護士は「全数把握をやめることで、なぜココアをやめなければならないのか。開発プロセス上の問題はあったが、プライバシーに配慮した良い仕組みだった。無くなってしまうのは残念だ」と話した。同じ有識者検討会合の坂下哲也・日本情報経済社会推進協会常務理事は「保健所の方々の意見を聞くと、ココアは学校のはしかやインフルエンザの時に使えるという。ただやめるのではなく、次の可能性に向けて、ぜひ検討を続けていただきたい」と政府に注文した。

公衆衛生に詳しいある専門家は「コンセプトとしては良かった。特にワクチンの接種が行き渡るまでは、保健所による積極的疫学調査を支援するアプリとして意義があった」と指摘。一方で「当初から不具合が多く、信頼を失ってしまった。オミクロン株流行以降は感染者が爆発的に増え、多くの人は感染者との接触歴があるかどうかを気にしなくなった。感染者の届け出を簡略化し、全数の登録ができない現状はやめ時なのだと思う」と語った。【山口敦雄、金秀蓮】